

コース

ヘルシー
ウォーキングコース

●健脚コース → 約6.5km 歩数10,800~13,000歩
●ふつうコース → 約5.6km 歩数 9,400~11,200歩

2 清田区の史跡探訪コース

普段なにげなく通り過ぎている道端や、神社の境内には、清田区に入植した先人たちの苦勞をしのび功をたたえる石碑が建っています。ウォーキングをしながら清田区の歴史に思いをはせてみませんか。



健脚コースの
消費エネルギー

[男性、女性70代・体重60kg・分速60mの場合]

約**293**キロカロリー

ビール大1本633ml
約255キロカロリー

コースポイントの紹介

② 清田開拓功勞碑(清田1条4丁目)

清田開拓の祖、長岡重治は、明治4年冬寒開拓団の一員として来道し、同6年アシリベツ(現・清田地区)に入植しました。重治は厚別川のほとりに水田を開き、寒冷地における稲作技術の改良に苦勞を重ねるとともに、神社や橋、学校、用水路などの設置や建設に尽力し地域の振興に貢献しました。碑は重治が開いた寺子屋が前身となっている清田小学校の校庭で、開拓時代の防風林の名残を止める樹木に囲まれ鎮座しています。

⑥ 吉田用水記念碑(清田1条1丁目)

地域の開拓は明治20年代に入り水田耕作へ力が注がれました。明治24年、広大な農場の主、吉田善太郎は水利を確保するために、厚別橋下流300メートル地点から大谷地小学校の東側を経由し、月寒川に達する延長約5キロメートルの用水堀(吉田用水)を開削しました。この吉田用水が地域の発展に果たした役割は大きく、清田から北野、真栄と水田が広がり、水田農家が一時100戸を越えた時代もありました。「清田」の名前にこの歴史の名残をとどめています。

⑩ 平岡樹芸センター(平岡4条3丁目)

平岡樹芸センターは、故竹沢三太郎氏から土地と樹木の寄贈を受け昭和59年に開園しました。2.9ヘクタールの広大な敷地には日本庭園やロックガーデン、刈り込み広場があり、約3,000本の刈り込み仕立てのオノコや約800本のヤマモミジ、ノムラモミジ、シダレモミジなどが植えられ、四季おりおりの風景が楽しめます。緑の相談センターも開設しています。

⑪ レンガ倉庫(平岡1条2丁目)

稲作が栄える一方、昭和30年代まで、平岡や北野の台地ではリンゴの栽培が盛んになりました。レンガ倉庫は収穫したリンゴの保存庫として建てられたものです。現在も、平岡、北野地区に風雪に耐えたレンガのリンゴ倉庫が数戸見られます。

⑫ 厚別神社(平岡2条1丁目)

厚別神社は草創者長岡重治が明治7年に開拓地の片隅に小さな祠を建て朝夕参拝したことに始まります。開拓が進むにつれて部落の方々も参詣できるよう、明治18年に小祠を建立し五穀豊穡と部落の安全を祈願しました。厚別川の洪水被害を避けるため、大正6年にこの地へ移りました。以来鎮守の氏神として地域住民のいこいの場になっています。例祭は毎年9月12日。正面の50段の石段は展望の場として絶好です。

⑬ 清田開基百年碑(厚別神社の境内)

碑は厚別神社の境内で、ミズナラや北限の杉木立に囲まれて建っています。碑には「当時、入植者は集団入植の形をとらず、先に入植した人を頼りに少しずつ人が増える状態であったために森林を切り開く苦勞は想像を絶するものがあつた。清田の繁栄は、こうした人々の血と汗にまみれた尊い開拓魂の結果のたまものである」と刻まれています。明治25年に入植した林田太郎氏によれば、「一歩南通り(真栄地区)に足を踏み入れると、二抱えも三抱えもあるような大木が空高く枝を張り青空も見ることができず、その大木の下に形ばかりの道が通っていました。」とのことで、当時この地には鬱蒼とした原始林が広がっていた様子が伺えます。